

第6回まち・ひと・しごと戦略茶話会発言要旨

日時	: 平成27年8月6日(木) 19:00~20:30
場所	: 社会福祉センター
テーマ	: 地域循環社会
参加者	: 8名(それぞれの分野で活躍している若手のかた)
市職員	: 5名

1. 話題提供

資料を基に話題提供

2. 意見交換

司会者: 今日のテーマは地域循環社会ということです。何でもいいので、ご発言いただけたらと思います。

参加者: ここに「みんなで共に進めるしくみをつくろう」「うるおいのあるまちをつくろう」「活気あるまちをつくろう」「ほっとする暮らしをつくろう」「いきいきとした暮らしをつくろう」「明日を拓くしくみをつくろう」と書いてありますが、地域の祭りなどをもっと活性化すればいいような気がします。

好循環を生むためには、まずは教育から始めるべきです。小学生や中学生の教育がとても重要で、少し違った考え方を教えることによって、その子たちが大きくなった時に循環するようになるでしょう。その教育は学校だけではなく、地域の行事に関わることによっていろんなことを学べますので、地域で活動が必要です。私は石部に住んでいますが、新興の住宅では自治会に入らなかったり、自治会に入らないことによって子どもたちが地域のお祭りにも参加できない場合があります。逆になぜ入らないのか、という思いもあります。煩わしいとか、僅かでもそういったところに費用を支払うのがもったいないとか聞きます。親がそういう対応をしていると、子どもがそれを見て育ちますので、悪循環が生じます。

我々としては、自治会に入っていない家庭にも夏祭りなどに参加してもらうようにしていますが、それなりに楽しんでくださっているようですが、自治会には入ってもらえません。

司会者: 教育が重要だというご指摘については、いろんなかたからお聞きしています。学校だけでなく、地域でも子どもを育てるべきだということでしょう。

参加者： 最近は、近所のおっちゃんに怒られるというようなこともないですよ、怒れないと言いますか、知っている子であれば注意しますが、知らない子にまで同じようにできるかと言えば、やはり抵抗感があります。

参加者： どこから手を付けるかですが、言うなれば全てしなければなりません。ただ全部を一気にするのは、難しいかも知れません。予算のこともあるでしょうし。私たちには分からないというのが正直な意見です。

市役所のすべきことは、日本全国の都市の中で人口が増えている町だとか、転入が多い町はどこなのかを知って、それを真似して同じことをしていく、というのも必要かと思います。

参加者： 女性の流出が多いまちであれば、結婚して出ていくということなのか、単に仕事で出ていくのか、どうなのでしょう。

司会者： それは、今までアンケート調査してきていないので。

参加者： 湖南省に住んでいる人は、他から嫁をもらってこないとか。

参加者： 幼い頃から「こういうところは嫌だ」と思って過ごしていて、大学に進学する際に別のところへ行って帰って来ないとか。結婚して、地域になれなくて離婚というのものもあるかと思います。

司会者： 慣れない土地に来て、近所付き合いがうまくいかなくて、ということでしょうか。

参加者： 婦人会がありますが、それすら参加したくないとか。

参加者： ただ、そういうのを減らしてしまうと、余計に悪循環になると思います。

参加者： 私も長男なので分かるのですが、親と嫁のどちらに付くかが原因で離婚に至ることもありますし、集落から孤立するとか、運動会や祭りに参加しない人もいます。集まる場を嫌う、また、嫌われていると思うというか、これも教育の一環だと思います。

人の子が叱れないというのは、叱ると訴えられるというのをテレビやマスコミで報道されていますので、叱ったら捕まるのではないかと考えてしまうというのがあります。昔とは違う状況になっていると思います。

参加者： うちの場合は親と同居で百姓もしていますが、よく嫁が来てくれたと思います。
近所付き合いも何とかしています。私の近所でも、私より若い年齢になると、
こういうのは嫌だと言いますし、市外に出て行ってしまいます。でも、年がいく
と帰ってくるかなとは思っています。

参加者： 今は同居だけれども台所やお風呂は別というのが主流ですし、そこから流れが
変わってきているように思います。

司会者： 親の方がそうしている場合もあると聞きます。

参加者： 湖南省には、結構、分譲地があります。建設の情報やメーカーから聞いた話に
よると、他から入ってくる人よりも、湖南省の住民で、次男が多いそうです。そ
の話を聞く限りでは流出はあまりないのではないかと思います、実際はどうな
のかと思います。

参加者： 湖南省内でも地域性はあるかもしれませんね。

司会： 地域おこし協力隊に入って、都会からこちらに来て1ヶ月経ってないと思いま
すが、湖南省に対してどのようなイメージを持っていますか。

参加者： すごい田舎に行くというイメージを持っていましたが、湖南省はどちらかと言
えば都会だなと思いました。思ったよりもまちがにぎわっていると感じました。
活動はしやすいです。

もともと住んでいた西宮は本当に都会ですが、そこで暮らしていた人たちに比
べると皆さん、温かいです。受け入れられていると感じます。

司会者： 湖南省に来て、何が不便だと感じましたか。

参加者： 今まで電車と徒歩で移動ができていたのですが、ここは車がないと行きたい
所に行けません。でも、不便だと思うことはそれぐらいで、逆に便利だと思うこ
との方が多かったです。特に買い物はしやすいです。

近くにイオンがありますし、住宅が多いのでスーパーも点々と近くにありま
すし、スーパーの中にもお店があります。お店がまとまってあるので、ひとつのお
店に行けば必要なものがすべて買えるというのが便利です。

また、都会では物価が高いのですが、こちらは28円の豆腐があります。ドラッ

グストアだけでなくスーパーにも置いてあるので驚きました。野菜も（西宮と比べると）10円以上は安いです。生活しやすいと思いますし、助かっています。

参加者： 正直なところ、実家に比べると便利だと思います。意外に、市外から嫁いで来た人が多いような印象があります。旦那も市外・県外出身で、奥さんも県外出身で、なぜか滋賀に移り住んできたという人とか結構います。

司会者： 湖南省の人柄はどうですか。

参加者： イベントに参加する人と、そういう人ばかりに会っているせいかもしれませんが、活動的な人が多いように思います。その分、それぞれが自分でやろうとして、分散している感じもあります。

司会者： この場には「やりたい」と思うような人たちが集まっていますが、中には「やりたくない」という人たちも市内にはたくさんいると思うのです。そういう人たちをいかに引っ張ってくるのか、だと思います。

参加者： 自分の地域をもっと盛り上げたいという人たちが、それぞれの地域にいます。

参加者： 先ほど物価が安いという話がありましたが、転入して来たかたはそう感じる人が多いかもしれませんが、私は昔から菩提寺の人間ですので、田舎に住むかたが逆にお金がかかるという感覚があります。例えば、お寺の檀家に入っていて、幾らいるとか、田舎ですから広大な敷地があって、それを手入れしなければならぬとか。だから、元から住んでいる人からすれば、金がかかって仕方がないです。私はもともと、まちおこしには興味があって青年会に入ったわけではありませんが、青年会に入って活動をしています。とりあえずやってみれば面白いというのは分かりました。でも、その「やろう」と思うきっかけが少ないように思います。

結局、まちづくりのための行事でも、活動している人は同じ人ですし、新たに誰かを参加させるための工夫が不足しています。そのために盛り上がらないのではないかと思います。やりたくない人はやりたくないで、例えば祭りにしても、設営はずっと同じ人がしています。する人がいつも同じであれば、結果的には広がっていかないです。

司会者： ○○さんは東近江に住んで湖南省にお勤めですが、東近江と湖南省の違いはど

ういったところだと思いますか。

参加者： 私の住んでいる付近では、ここ数年で新興の住宅が次々と建設され、聞いた話によれば市外から来られているかたも多いそうです。日枝山手台の分譲地でも湖南市以外のかたがおられます。工業団地に勤めているわけではないのに、です。あれだけきれいなまちで、近くに学校があって、市との関わりもあって、ということ、何か魅力を感じて、そこに転入してきたのだと思います。

うちには1歳9ヶ月の子どもがいますが、最近、2人目をどうするかという話を妻とするのですが、私の給料は安いですし、お金のことが一番に頭をよぎります。この間、テレビで過疎地に住むシングルマザーの話題を見ましたが、その過疎地で人を集めるために、市の安い住居を貸したり、何かあった時には子どもを預かったり、子どもを見守る環境を地域全体で作るなどして、実際に何家族かが転入して来たそうです。ですから、お金の部分で、子どものいる世帯に支援できるものがあればいいと思います。

お金の次に思い浮かぶことですが、もともと妻は会社の同僚で、結婚した時に仕事を辞めてもらいました。今、妻はひとりで子どもをみていますが、とてもストレスが溜まるようで、働きに出たいという話になります。ただ現時点で妻は働いていませんので、子どもを預けるところがありません。いったん主婦になってしまうと、子どもが小学生になるまでは仕事に復帰しにくいです。これから家を建てようかという人にとっては、その辺りは考えることではないでしょうか。子どもの受け皿が充実していれば、母親が働きに出られると思います。

司会者： 正規で職場復帰するつもりはないけれど、子どもを気軽に預けられる、息抜きできるような場所があればいい、ということですか。

参加者： 実家の親に子どもを預けられないのですか。

参加者： 自分の実家ならいいようですが、私の実家だと気を使うようです。

参加者： 親と一緒に住んでいると気を使うのは確かですが、メリットもたくさんあります。子どもを預けて出掛けられますし、家を建てなくてもいいので生活費も楽です。それを拒否してまで自分で無理をして家を建てて、お金がなくて苦しいというのはおかしいです。

でも、そういう人も車や携帯にはお金をかけています。

参加者： 出生率が今、1.4とか1.5ぐらいですから、子どもは1人か2人かです。2人目

を考えた時に、近くに留まるかと思います。

参加者： 2人目を産むと考えた時に、いろんなハードルが出てくるのだと思います。
そのハードルをいろんな施策で下げられれば、2人目が産めるでしょう。

参加者： 地域循環の中でも、経済循環が最も気になるのではないかと思います。経済循環を行う上で、まず地域ブランドを掘り起こしていかなくてはなりません。湖南省にある地域資源には、下田焼、藍染めなどがあります。そういったものがあるにも関わらず、それらのブランドが発達しないのはなぜか。やはりブランドとして発達させていくには、変えてはいけないものと、変えていかなくてはならないものがあります。

変えてはいけないものとは、伝統や知覚品質、信頼などです。一方、変えなくてはならないものですが、現代のニーズに合わせて変化させていかないと、ブランドの維持継続は困難です。湖南省に足りないのは後者です。変えていかなければならない部分をどうプロデュースするのか。マーケティングも含めて、現代のニーズに合わせて変えていかなくてはなりません。これをコーディネートする人がいないために、過去の産物で終わっています。

まちを再生していくには、人の教育からやっていかなくてはなりません。教育と文化というところが曖昧で、いいものを生み出そうとしても、地域ブランドが文化になっていかなければ、それはブランド化していきません。

例えば、下田焼であれば「下田焼サロン」とか、研究会を発足させるとか。下田焼に興味を持つ若い子が参画していくことによって、新しいニーズに沿った新しい下田焼ができることも考えられます。伝統産業というのは、人を惹き付ける魅力がないと、地域循環としては難しいのです。

藍染めなど、地域で掘り起こしたさまざまな資源を地域の人を使う、湖南省内の飲食店がそれを使う、ということになれば、これは地域で循環していきます。実際には、飲食店の人たちが下田焼を買うかと言えば、信楽に信楽焼を買いに行ってしまうかもしれません。

では、文化として成り立たせるためにはどうすればいいかと言えば、信楽焼の人を呼んで来て、下田焼と組み合わせたハイブリッドなものを作るといった方法があります。

例えば、湖南省には素晴らしい野菜がたくさんあります。産物であれば、どこそこの畑のおじいちゃん、おばあちゃんが作りましたということを明示して、湖南省の中でブランドを確立させるべきです。そうすればおじいちゃん、おばあちゃんも毎日の仕事に精が出ますし、売る場所もできます。でも、なぜ、マルシェのものを買わずに、なぜ平和堂のものを買ってしまうのか。それは信頼がないか

らです。

信頼を得るには、有機農法とはこうするのだとか、虫が付かないためにこうしましょうと教えてあげる。それにより商品が標準化され、文化となり、湖南省ブランドが確立するきっかけになります。

司会者： 資料に「6次産業化」「道の駅・物産館での特産品開発・販路拡大の支援」と書いてありますが、イオンタウンの横に道の駅・物産館を設け、今後、湖南省でやっていきたいと考えています。人の集まる道の駅・物産館ということで、全国でいろいろな道の駅を見てきた中で、こういう道の駅であれば人が集まるだろうというのがありましたら、ご意見ください。

〇〇さんは農業をやっておられる関係で、どのような考えをお持ちでしょうか。

参加者： 新鮮な野菜を作ることを目指してやっていますが、廃棄が出てしまうと処分しなければならぬので、物産館の横でもいいので新鮮な野菜を使った料理を提供するお店、生産者の顔が見えるレストランのようなものがあればいいと思います。

参加者： おいしいのですか。

参加者： 甘さが日によって変わります。例えば朝とりトウモロコシは生でも食べられます。でも、1日経つと、焼いたり、電子レンジでチンしないと食べられない。

参加者： そのように契約農家と提携しているような飲食店は湖南省内にありますか。

司会者： 給食センターとか飲食店とかをうまいことつなげないですかね。

参加者： JAさんにも提案したのですが、そこは9時から10時までの短時間で、お客さんが入ります。そこは、本当に新鮮で安い野菜を売っています。野菜を売る場合、道の駅などに出しても手数料何%とかいうのは取られます。直売所は庭先売りですが、他のお店に卸している値段と同じ値段なので、それだけ儲けにはなりません。

参加者： まとめてJAに卸したり、代理店に卸したりするよりは、直売の方が、メリットがあると思うのですが、そこが安くて美味しいということになれば、みんなそこに集まってきます。

参加者： 価格は生産者一人一人が考えることで、たとえば120円、150円というところもあれば、100円で売っているところもあります。

参加者： 値段を自分で付けられるのであれば、ある程度細かくして、ブース買いのようにしてもいいのかも知れません。

参加者： 私が以前、住んでいた近くに「あいとうマーガレットステーション」がありました。車のナンバーを見てみると、京都・兵庫・大阪などからも来ていました。地元の野菜もありましたが、ぶどう・メロン・柿の果汁が売れているようでした。主婦は、安いとやはり買って帰ります。

これは、まちの施策のひとつだと言われていましたが、地元の農産物を使ったレストランと障害者の施設との共同開発をしたものを敷地内で食べられて、レストランに関しては、地元の物が食べられます。ここに出したりはしないのですが、地元の物を買って上げて、地元の物で作られています。

司会者： ロコミがたくさんあって、県外から来られてもいるようです。流行る道の駅は、地元のリピーターが多いと聞きます。

参加者： ここは地元の人も来ますが、県外の人も来られます。

司会者： スイーツが専門の〇〇さんは、道の駅にどういうスイーツを置けば流行ると思いますか。

参加者： 今、空中栽培したサツマイモで発電をしようという試みがあって、よくテレビに出ている先生をお呼びして、そのサツマイモを使ったスイーツを開発しています。これを道の駅に置かせてほしいです。

ブログやFacebookなどインターネットのツールを使うことで、外にも発信できますし、全国的に知ってもらいきっかけになるのではないかと思います。とりあえずは発信するだけですが、将来的には自分が作った他のお菓子も売っていきたいです。

司会者： 道の駅には、よくおいしそうなスイーツとかパン屋さんも入っていますね。ぜひ、頑張って開発して出品していただきたいと思います。

参加者： インターネットで売るにはどうすればいいのか、農家のおじいちゃん、おばあちゃんが物を売るにはどうすればいいのか。そういう指導や工夫を継続的にやっていくためには、委員会的なブランド推進委員会などを行政主導で作って、講師を招いて物の売り方を指導すべきです。で、自分たちもグループワークをして、言

われたことを言われたとおりにやって変化に気づいて、その変化が楽しくなるように、また、それを次につなげたくなるような場を提供してあげるべきだと思います。

「世代の循環」と書いてありますが、世代を循環するにはどうすればいいのか。それは、湖南省で起業をしやすい環境を作って、若者を呼び込むことです。それには、地域ファンドや地域バンクであるとか、地域の人や湖南省が出資をして、投資・融資をする。そしてそのお金を若者が使いやすくするために、行政との連携が必要になってきます。指導や教育はできると思います。湖南省発信で、何かしたらいいと思います。

私は特定の業種に限定して、そういうようなことを実施してもいいと思います。例えば、飲食業だけに特化して、皆でファンドを作って盛り立ててあげようとか。そうすればここが飲食のまちになります。そのためにはさまざまな支援が必要です。ですから、そういう面白い動きが組めないのか、できないのか、と思っています。

参加者： 東近江市商工会が女性に限定して、創業塾を土日に開講しています。そこに中小企業のかたや女性の人ばかりが講師になって、30～40人を毎回集めています。その中で、5～6人が起業しています。今年は意欲のある人が多かったのもう少し多いと聞きました。

例えば、能登川の駅前の空き家があります。ここで開業したら補助金を出します、ということで起業の支援をしています。起業するには、ノウハウもいりますし勉強することもあります。そのお手伝いをさせてもらっています。

司会者： 金融機関のかたに来ていただいているので、何かご意見をお願いいたします。

参加者： 基本的には地元で集めたお金は、地元で使っていただくというのが前提で仕事をしています。地元に関するさまざまな取り組みをしていただけたらいいと思っています。

また「地域エネルギーの活用」というところでは、私どもはご指名をいただいて、太陽光発電に関して、2号機・3号機の計画に参加しています。まだ確定はしておりませんので、できるだけ早く確定して、市と事業主体という形の広報活動を行っていきたいです。

司会者： ○○さんがおっしゃった地域ファンドに参加していただくことも可能なのでしょうか。

参加者： 可能ですが、今までもファンドのやり方は、国が規制をかけましたので、今はクラウドファンディングによってネット上で、「こういう事業体が行います」「ネットを見てください」「これに賛同されたかたは出資をしてください」ということで終わっています。これからはこういう形が主流になるでしょう。

司会者： クラウドファンディングは今後、行政としては必要だとは思っています。

参加者： 金融機関としても、クラウドファンディングの事業体と提携企業が結んでいきますので、そういう形で進んでいくと思います。

参加者： 道の駅・物産館のところで、地域の野菜を取り扱っているところはたいてい流行っています。並べているものにもよりますが、決して安くはないですが、すぐに売り切れます。通常、地域野菜を置けば立地にもよるかもしれませんが、売れるとは思いますが。

真新しいことをするとすれば、内地で海の幸が豊富に取り揃えられていると、インパクトがあるとさらにいいと思います。また、そこで取り扱っている商品を使ったレストランも必須だとは思っています。ただ、聞いたところによると建物自体が 150 坪ぐらいしかないとのことで、盛り上げていこうとしている割にはパツとしない、そんな小さな建物で何をしようと思っているのだろうか、とってしまいました。

参加者： 人を呼び込めるだけの設備がないと、人は来ないですね。

参加者： ○○さんがおっしゃっていたような、内地にも関わらず海の幸が、というのは、素晴らしいアイデアだと思います。やはり、これからは同じ地産地消であっても、この地域だけでなく、どこかの市と提携するのが良いと思います。昔ながらのやり方で、トラックで魚を持って来てもらったら、野菜を積んで持って帰ってもらうとか、そういうことを、どこかの市と提携してやれば、相互の発展につながっていきます。

参加者： あっちもこっちではなく、特定のところとね。

参加者： それが一つの売りになったら、周りのところからも新鮮な魚を求めて来られるでしょう。向こうが毎日朝に持って来てこちら朝に返すとか、そのような良い循環ができるといいですね。

参加者： 教育のところで、なぜ今このような世の中になっているのだろうかと考えた時に、メディアやネット環境が影響して、今は昔に比べて娯楽が多いです。みんなの意識がそういうところについてしまっている。そのために、もともと日本人が持っていた実直で堅い性格というものが変わってきています。子どもを育てる私たちの親世代がまずおかしいし、僕らを育てていた親世代も欠けていたと思います。そこでしっかりとした教育をしていかないと、ますます悪くなっていきます。ネット社会、メディアから子どもを守っていけるかというといけない。情報社会が商売をやりやすくして、悪循環が起こっていると思います。

最近、ゴールデンタイムに携帯ゲームのCMがとても多いのを感じます。このようなことのために多額のお金が動いていて、これをやっているがために子どもが育てられないという話になっているかと思うと、世の中が終わっていると感じます。

企業も経営理念を持ってやっているのか、あるいは儲かるからやっているのか。会津では、昔ながらの会津十訓のようなものを、今でも小学生に教えているようですが、あれはいいことだと思います。

まずは小規模でいいので、地域コミュニケーションを密にして、新しくできた娯楽ではなく、人間本来のコミュニケーションの楽しさを教えられたらいいと思います。

司会者： 本日は、貴重なご意見ありがとうございました。